

臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報

平成18年(2006)新春号



新潟県立村松高等学校東京同窓会

No. 40



先を読む

将棋でも囲碁でもそうだが「長考一番」という言葉がよく使われる。中々次の手が出てこない、傍で見ている、歯痒い位である。ところが、対局者は二十手も三十手も先を読み、考えているのである。特に専門家の囲碁戦では中盤で投了ということが間々ある。我々素人にしてみれば、未だ勝負が尽いていないのに、なんで？と思ってしまう。持ち時間切れもあるかも知れないが、既に先々の手を読んだ結果である。

囲碁・将棋に例を挙げたが我々の周囲にもこういう事は、たくさんある筈。ことを成すに当り、良くも悪くも、先ず結果を考えることが筋道であろうとおもう。

至近な例だが先の衆議院総選挙で比例区のドン尻で初当選した26歳の新人代議士サンが、嬉しさの所為かバカみたいなことを言っていた。最年少で地盤も何もない新人だからマスコミの目を引くことは当然考えられたことである。そして世間の物笑いの種となった。彼は何故、自分の置かれた立場を考えなかったのであろうか、取材記者に取り囲まれることを何故予測し得なかったのか？考えが浅いと言わざるを得ない。先を読んでいなかったのである。国民から莫大な報酬を貰いながら只、議場に於ける党の投票機械と化するのを私は憂いる。

会報39号に「人の話に耳を傾けよう」と私の小論が載ったが、人の話をまともに聞くことは中々難しい。人の話を聞いていれば、ある程度自分の考えも纏まる。

副会長・財務委員長 塚田 勝 (高8回)

明けましておめでとう御座います。昨年は、御指導ご鞭撻を賜り有難う御座いました。小泉首相の言う人生いろいろ、人もいろいろ、多くのいろいろがありました。

内外共に大きな自然災害が頻発したのは、地球温暖化の影響でしょうか。愛知万博は平和日本を象徴するような大成功で9月25日閉幕。大阪万博から35年、地球環境の回復と保全をテーマに121ヶ国が参加し、種々の知恵や技術が展示されました。

東京同窓会も昭和60年の会員名簿によると878名を数えたが、現在330名を切り、時代の流れを感じます。元気印の人達で伝統を守り、盛上げていきましょう。平和で平穏な会が続きますようにご協力をお願い致します。

副会長 深見 洋子 (高7回)

また、巡り来し新しき年、
去年より途絶えることなく続く時の流れ、
何故か改まった気持ちになる。

初日に向い、良き日々の永続を祈る。

今年は役員改選の年に当る。会員諸氏の斬新なアイデアお寄せください。心地よい会が発展し、継続するために。

会長 佐伯 益一 (旧中27)

そして自分が発言する時は一分ぐらい余裕をおいてから要領よく発言せよと常々言っているが実行されていない。

何処の会議・会合でも、よく出食わず状況であり、本論の「先を読む」とは表裏一体の関係にある筈である。

さて、同窓会広報委員長から会報新春号に載せる原稿を要請されて、この文を起こしたのが10月である。正月には未だ2ヶ月あり、四苦八苦ししている。身辺のことは別としてあと2ヶ月の内に何が起こるか判らない。特に今年は、昨年に続き、地震、大惨事等々が頻発しているので予断は出来ない。正に先が読めないのである。皇室の慶事はあっても直接には関係はないし、只あと2ヶ月間、平穏無事であることを願い、めでたく新年を迎えることが出来ることを祈るのみである。

母校の地、村松町も1月1日には合併して五泉市となりやがて新しい市長が誕生するが、先から先へと読んで、新しい施策を打ち出して欲しいと期待する。

この1年間、会員・役員の皆さんには大変ご苦勞をおかけした。厚く感謝申し上げ、更なる御多幸・御健在を祈念し、駄文ながら思いの一端を述べて新年のご挨拶に代える。

私の父は73歳で亡くなり、私は春には81歳となる。先輩も殆どいなくなってしまった。先を読み違えたのかも知れない。

総務委員長 金子 鶴男 (高5回)

明けましておめでとうございます。

「MOTTAINAI」「勿体無い」(もったいない)

山田洋次映画監督のこんなエッセーがあります。「男はつらいよ」の中で笠さんは、寅さんの故郷葛飾は柴又帝釈天の御前様を演じている。31作目の柴又ロケで昼食をいつものように門前町の高木屋で摂った時、疲労のたまってきた我々スタッフのために上等のステーキが出された。笠さんが私の隣で黙々と食べ、食べ残りをそーと紙に包んでカバンの中に入れた。「こんな上等なステーキを私ひとりが戴くなんて(もったいない)家内に食べさせたいと思って……」

ノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータさん(ケニア環境副大臣)は来日した時、「勿体無い」と言う言葉を知って感銘を受け、世界に広めることを決意したそうです。母国語として普段使っていないながら余り意識しないけど、こういう言葉が生まれる昔の日本人の感覚って見直す必要がありますね！

さて、ここで初心に戻って会則を見直し、会員の拡大を図りながら一人でも多くの参加を願い、夢とロマンのある東京同窓会をつくらうではありませんか！

「つまらない」ことから……

村松高等学校長 水荃 芳英

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

昨年は、国政の場においては、小泉流「改革」で明け暮れた年でありました。一方、松高においては、就職虚偽内定問題で同窓の皆様をはじめ多くの方々にご心配をおかけした年でもありました。

この虚偽内定問題は、学校改革を目指していた矢先のことだけに、4月以来の約半年間のブランクは大きな痛手でありました。この件については、未だ全て解決したわけではなく、新潟地検は、虚偽私文書行使、業務妨害罪で逮捕された元進路指導アドバイザーを起訴しており、公判中でありますので、まだまだこのためにつまらないエネルギーを費やさなければなりません。厳正な面接試験を経て、難関を突破して採用されたアドバイザーが、まさかウソを並べ立てて10人の生徒を奈落の底に突き落とそうとは、校長として夢にも思っておらず、全くの想定外のことであります。

一般に、どこの企業や学校においても社長や校長は、最終責任者として業績や実績の向上以上に、常に危機管理に多くのエネルギーを費やしているはずですが、たとえば、学校においては、校長は、生徒の授業中の偶発事故や校外における交通事故、喧嘩・暴力等々の未然防止に気を遣うものです。生徒に将来の夢と希望を与えるべき身内の職員が、その夢と希望を踏みにじる行為をして生徒職員に多大な精神的苦痛と損害を与え、その後始末のために校長や職員が費やすエネルギーは、まさにつまらないエネルギー以外何ものでもありません。

しかしながら、被害を受けた元生徒や保護者にとっては、今回の真相解明のために私たち学校が費やすエネルギーは、実につまるものであってほしいはずですが、真剣に真相解明をして欲しいと思われるのは当然です。被害に遭われた方々が、もし、小生の「つまらないエネルギー発言」をお聞きになったら、激怒されることは容易に想像できます。学校の責任のすり替えだ！と言われても返す言葉もありません。実際に学校で起きた事故ですから、最終的には校長の責任であります。被害生徒への新たな就職先の紹介と精神的なケアについては、県教育委員会と共に万難を排して臨みました。

その結果、事件発覚以来約1ヶ月強で、新しい就職先をお世話することが出来ました。これはひとえに伝統あ

る松高の同窓会やPTAの皆さんの温かいご支援の賜物であります。また、村松町・五泉市の町長・市長様をはじめ地元自治体のご支援も多く賜りました。田舎の学校ゆえの困ったときの隣組精神が未だ厳然として生きていることの証を実感した次第です。

さて、肝心の学校改革の方はどうなったのかと云う事ではありますが、約半年間のブランクの後、就職事件で失った松高の信頼を取り戻そうと、1学期末から精力的に改革プラン作りの作業を再開し、夏休み中も何度も職員会議を開き、ようやく結論を見ることが出来ました。先生方の叡智の結晶であり、同窓・PTAの皆様の心温まる叱咤激励のおかげでもあります。正に地域に開かれた学校づくりのお陰でありました。最後は、松高の保護者の皆様全員に学校改革プランを提示し、校長の改革プランに対するご意見をいただきました。その結果、99パーセントにも達する賛同意見をお寄せいただきました。

その改革プランの最大の特徴は、週当たり授業時間数をこれまでより2時間上乗せする事によって、基礎学力を向上させ、就職・進学の実績をこれまで以上に向上させることが狙いです。文科省の提唱したゆとり教育は、結果的に、基礎学力にゆとりのない高校生を大量に輩出する事となり、不況の影響と相も変らぬ大学入試制度についていけない生徒が、県内外を問わず多く出る結果を生みだしました。「ゆとり」という甘美な言葉のマイナス面が作用し、生徒の進路実現が改善されていないのではないかと云う多くの声から、松高の改革は始まりました。

国民の間でもこのゆとり教育については賛否両論が沸騰しておりますが、本校においても当初から賛否両論が渦巻き、改革が実現するまでに2年近く掛かってしまいました。しかし、松高のこの改革に拍車を掛けたのが、先につまらないエネルギーを半年間費やしたおかげでもあったのです。ここで学校改革を急がなければ学校が潰れるという危機感と、10人の被害者とその保護者のやるせない気持ちに対して学校改革という形で恩返しをしたいという全職員の心意気が、つまらないエネルギーをつまるエネルギーに変えたのでした。

「不運は誰にでも降りかかる。成功者はその不運から学び、さらにその不運を幸運への足がかりとする。」「幸運の女神は準備を整えた人に微笑みかける。」の二つの言葉を思い出しました。「仏つくって魂入れず」にならないようにしたいと思います。

副会長・事務局長 八木 又一郎 (高7回)

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

一昨年会長より事務局兼務で副会長を仰せつかりまして、はや一年半となりました。会員の皆様のお役になんとか役立ちたいと思いつつも、さしたることも出来ず心苦しく思っております。今年の総会まで同窓会の運営

がスムーズに行われるよう努力いたして参りたいと思っておりますので、何卒ご協力ご支援、またご鞭撻を承りたいとお願い申し上げます。

今年は会員の皆様が、より一層明るく健康で、良い年でありますよう心からお祈り申し上げます。



松高東京同窓会・第四十八回大会報告

平成十七年六月四日（土）、高田馬場駅前のビッグボックス内「アルファ」にて新潟県立村松高校東京同窓会第四十八回大会が会員六十名、母校より校長、担当教諭、本部同窓会役員等の来賓四名を迎え、総勢六十四名が出席して開催された。

定刻の正午、澤出（高4）・高岡（高12）両幹事の司会で開会となる。冒頭、佐伯会長は謝辞の後、「高齢の故か、旧中学・高女の同窓生の出席が少ないのは残念。今後の同窓会の発展は高校卒の皆さんの双肩に懸っている」と挨拶。同窓会本部の藤田副会長は「母校改革案として習熟度別授業を徹底して行い、進学率の向上を目指すよう地域、同窓会が一体となって後援するように」提言。水茎校長も同窓会の熱意を受け、「今後更に教育改革を推し進めていく決意である」と力強く表明される。その後、総務・財務・広報各委員長報告を承認し第一部を終る。

第二部は、向山幹事の乾杯音頭で始まり懇親会となる。郷里の合併問題、家庭の話、仕事の話等々お互い一年振りの旧交を温めるべく話に花が咲いて、会場は一段と賑やかさを増していく。やがてフラダンスが始まり座も一段と華やかに盛り上がる。女の人がスポットライトを浴びると「二十歳は若く見える」と誰かが呟いた。

恒例の会員持ち寄り賞品の抽選会も悲喜交々のうちに進み、最後には会長寄贈の銘酒を会長が直々に抽選札を引き、麒麟山・吉乃川・越乃寒梅の三本が夫々の当選者に贈られた。

午後四時、余韻醒めやらぬまま今大会はお開きとなる。余勢を駆っての二次会もまた大賑わいであった。

今年は、得体の知れぬ鳥インフルエンザが流行るとの情報もある。会員諸兄弟姉のご健在を心より祈ってやまぬ。

大会実行委員会 記

東京同窓会・第48回大会収支決算書

平成17年6月4日(土) 於:高田馬場駅前 BIG BOX

収入の部				
項目	内訳	人数	金額	合計
①懇親会費		60	8,000	480,000
	男子43名			
	女子17名			
②祝儀		4	10,000	40,000
	同窓会本部			
③会員寄付		2		5,000
	石黒四郎		2,000	
	吉井 清		3,000	
合計		66		525,000

財務委員長 塚田 勝 報告

支出の部			
項目	内訳	金額	合計
①懇親会費	64名		409,500
②二次会費補填			20,000
③アトラクション謝礼			20,000
④本部対応費			9,240
⑤準備費			75,385
	会議費	13,860	
	切手・はがき	45,500	
	コピー	2,085	
	出席者名簿作成	1,000	
	会報・資料送料	1,060	
	封筒	7,700	
	交通費	4,180	
合計			534,125
収支残高			-9,125

抽選会に景品寄贈された方々（順不同・敬称略）

佐伯 益一（中27）	伊藤 勇五（中33）	青木 猛（高02）	杵渕 政海（高02）	篠川 恒夫（高02）
澤出 赳允（高07）	塚田 勝（高08）	山崎 輝雄（高08）	阿部 勇（高09）	石黒 四郎（高09）
金子 健二（高13）	山田 俊治（高14）	斎藤 正義（高18）	山中 滋（高20）	佐藤 玲子（女25）
鈴木 節子（女25）	向山 律子（高05）	深見 洋子（高07）	岡部 ユキ（高08）	片柳 ムツ（高08）
木村 孝子（高08）	山西愈佐子（高08）	小島 典子（高10）	徳永 道子（高12）	高岡五百子（高12）
安達 繁子（高20）				

◎ご協力ありがとうございました。尚、当日は受付混雑のため記載漏れがありましたら、謹んでお詫び申し上げます。



第 48 回 ・ 東京同窓会出席者名簿

平成 17 年 6 月 4 日 (土)

於 BIG BOX 高田馬場店 9F

新潟県立村松高等学校東京同窓会

来 賓(4名)	旧中学校(3名)	高校(53名)		
同窓会 副会長 藤田 暉輔 様 同窓会 副会長 相田 豊 様 村松高等学校長 水荃 芳英 様 松高同窓会担当教諭 大塚 崇 様	27 佐伯 益一	02 青木 猛	08 岡部 ユキ	12 安部 實
	32 成海 正弘	02 杵淵 政海	08 片柳 ムツ	12 岩野 忻史
	33 伊藤 勇五	02 篠川 恒夫	08 木村 孝子	12 高岡 五百子
	旧女学校(4名)		08 久我 マキ	12 徳永 道子
	25 佐藤 治	03 亀山 知明	08 鈴木 輝雄	12 中村 雅臣
	25 佐藤 玲子	03 杉本 芳男	08 高地 彰	
	25 鈴木 節子	03 渡辺 八郎	08 塚田 勝	13 金子 健二
	25 近藤 昌子	04 大島 惣四郎	08 治田 レイ子	14 山田 俊治
		04 加藤 清治	08 松尾 正春	
		04 下野 文幹	08 山崎 輝雄	16 小笠原 一憲
		04 鈴木 多喜男	08 山西 愈佐子	16 小黒 正恒
			08 吉井 清	16 郡司 正大
		05 新井 康夫	09 阿部 勇	16 服部 修治
		05 金子 鶴男	09 石黒 四郎	
		05 雲村 俊造	09 間藤 謙一	18 青木 敏和
		05 向山 律子		18 笠原 静夫
		05 山崎 豊吉	10 飯利 幸	18 斎藤 正義
			10 大橋 貞夫	
		06 澤出 越允	10 小島 典子	20 安達 繁子
				20 山中 滋
		07 加藤 喜七		
		07 深見 洋子		
		07 八木 又一郎		



校歌・応援歌の大合唱



～艶やかなフラの踊り～



名司会の澤出さんと高岡さん



乾杯！音頭をとる向山さん

平成 18 年度 松高東京同窓会開催のお知らせ

◎日 時 18 年 6 月 3 日 (土) ・ 正午開催

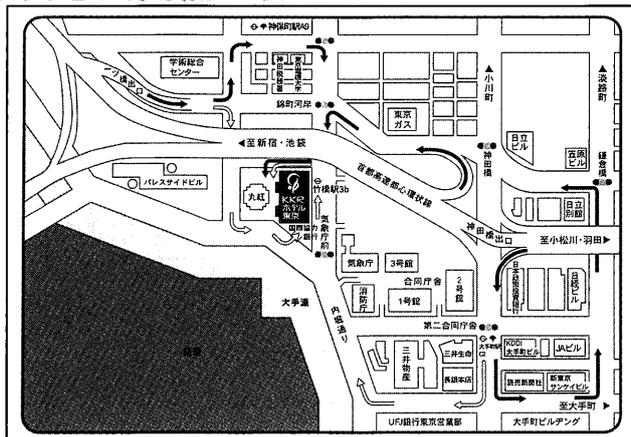
◎場 所 KKR ホテル東京

◎住 所 千代田区大手町 1-4-1

TEL03-3287-2921



- 地下鉄東西線竹橋駅下車
(大手町駅寄改札から専用 3b 出口直結)
- 地下鉄千代田線大手町駅 C2 出口より 5 分
- 都営地下鉄神保町駅 A9 出口より 5 分



お便りの中から 順不同・敬称略

久我 マキ (高8)

豪華な会長賞が当りびっくり。丁度席を外して、ホラホラと言われるまゝ壇上に。しどろもどろのコメントでお恥ずかしい限り。くじ運には縁遠い私でしたが今年はきっと素適な良い年になることと嬉しくなりました。大事に抱えて帰りました。美味！幸せでした。同窓会のお世話になりいつも感謝です。動かなければ楽しい出逢いも無い。出席しなければ、会長様お体お大事に！

千代 国一 (旧中18)

「新潟県人」七月号をご惠贈頂き、厚く御礼を申し上げます。表紙の村松中学校校門の写真は本当に懐かしく大切に参ります。七頁上段に私の名が載っていて、恥ずかしながら大層忝く御礼を申し上げます。中学に在校中、式場隆三郎先生のご講演を聞いて感銘を受けた記憶があります。宮中「歌会始」は昭和二十二年から始まったのですが、選者は佐々木信綱氏外現在まで四十一名に過ぎません。私は平成二年から九年まで八年出席しました。私の席はいつも決っていて、天皇陛下の真正面で二十米位しか離れていませんでした。陛下は私の名と顔を覚えて下さいました。

村松中学校の校歌は立派な校歌で、作詞者の名を知りたいと長く願っていましたが、浮田辰平初代教頭の作詞と知り嬉しく思いました。私事ですが、新潟県立北高校他二校の校歌を作詞しましたが、非常に難しいものです。私が校歌を依頼された高校の校長先生は、自分の死の時は、葬儀の折に校歌の合唱を頼んでであると申されました。

会報「臥龍が丘は緑なり」に旧校歌の作詞者の名を載せて頂きたいと思います。「見よ凌霄の気を含む」の意味は在校中知らず、社会に出て、昭和十五年に短歌を始めてから漸く判りました。多くの卒業生も意味が判らないまま歌っているかと思われます。「凌霄」は「広辞苑」には出ておらず「角川大辞源」に出ています。

凌霄りょうしやう = 大空をしのぐ。霄りょうしやうは、おおぞら。志気の高いたとえ。とあり、凌霄花は「のうぜんかずら」の異称と「広辞苑」に出ています。本当にありがとうございました。

須佐 平助 (旧中27)

東京新潟県人会報「新潟県人」送付頂き御厚意多謝。お互い傘寿を迎えると否応なしに体の老いを痛感する。君は杖を頼りの四本足歩行。しかし、どうしてどうして君の文章を拝見して老いの気概を読み取れる。しかもユーモアがある。体は老いても心は実にみずみずしい。だから私はいつも刺激を受ける。「わがふるさと、わが母校」一字一句味わい乍ら読んだ。特に「善行、善意」表

彰カードのアイデアは如何にも君らしく感心した。

「感心した」などと他人事のような言い方で失礼。常に前向きに事象をとらえて行動している。それが君の若さ、心のみずみずしさなのだと思った。詩人相田みつをは「感動とは感じて動くことだ」と言っている。

「臥龍が丘は緑なり」と「一寸おもしろい話」もそれだ。ところで典型的IT弱者を希少価値のように思っていた(半分はひがみ心)私も最近、実生活に一寸不便をかんじることがある。君は挑戦して使いこなしているとか、ここにも君の若さを感じ頭が下がる。習いたいのだが、今の私には時間、体力の余力が残念ながらない。それにしても事務的な手紙以外は肉筆の手紙をもらうと嬉しい。ともかく一日一日、すべてと思って感謝して生きたい。

雲村 俊髓 (高5)

其の後、意気軒昂のご様子なによりと存じます。

「新潟県人」七月号をお送り下さいましてありがとうございます。感激しております。

実は柏崎高校出身の作家・若山三郎氏が「村松高校が載っているよ」と言って先にコピーを郵送してきてくれましたので、内容は読んでおりました。しかし、コピーと実物では受ける印象が格段に違います。感慨をあらたにしてもう一度、読ませて頂きました。

いつも感心するのですが、佐伯先輩の書かれる文章はよく取材され、分かり易く無駄なく整理されております。あらためて行を追うごとに「おや?」「まあ?」「へえ?」を連発してしまった次第です。

私は村松の出身なので、校庭に旧工業学校の大煙突が残っていたことは幾度か聞いておりました。ところがその上で逆立ちをした先輩がいたとは、さもありませんかと思つたと同時にやはり「へえ?」と呟いてしまいます。

「塵の巻を…」の校歌誕生の経緯やら、不許可になっていった過程やらは、ここもまた「おや?」で、なぜか涙の溢れるような感情に心を揺すられてしまいました。

気骨と根性の時代は遠のいて、また再び戻ってくることはないのでしょうか。私は最後のよき余韻を吸収して卒業できたことを大変誇りに思っております。

激しいマスコミの世界を生き、そして現在があるのは村松で青春を送れたからです。「県立村松高校」の記事は私の大切なお宝に致します。

熊倉 芳枝 (旧女19)

前略、何時もご活躍のご様子、主人共々感服申し上げます。先日は県人会の会報を有難う御座いました。



私共、厚木の奥に引っ込んで何とか日々忙しく過しており、つまらない仕事ながら様々な方々と接し一つの生き甲斐としております。あっと云う間に七十代が過ぎ、呆けないように、と云うのが我々の願いです。

フィードバック療法を折々に使い乍ら…と…

背中が曲がらないように、腰が曲がらないように…と、たまには眉を書き口紅をつけて化粧したりしています。

「お年の割りに若いわね」とおだてられたり、その気になって張り切ったりしています。私は今一番の楽しみが本を読むことです。テレビを見ても若者向けのギャーギャー番組ばかり。時折これでもいいのかしら？と根本的な考え方の相違にガックリすることばかりです。

議論をすれば主人に打ち負かされるし、文章を見て貰うとクササレルし、と相変わらず若い気分が抜けずにいるようです。私自身、村松高女のことを少し書きたいと思って田舎の友達の大塚イミさんに云っていたのですが、そのうちに暇を見つけて、とっています。だんだんと頭がお留守になってくるので、刺激が欲しいと云うのが実情です。主人よりよろしくとのこと、悪筆なのでお前書け、と言われたところです。

新潟県人会広報委員 市川 昭二

「臥龍が丘は緑なり」39号のご恵送、誠に有難う御座いました。厚く御礼を申し上げます。

年に二回会報を発行される貴会のエネルギーに驚きます。貴会と云うよりは佐伯会長の正に鶴の一声でこのように質量ともに素晴らしい会報が出来上がるのだと本当に畏敬の思いです。

十六頁に校歌が載っていますが、旧県立村松中学校の歌詞は格調が高いですね。私の母校十日町中学も似たりよったりです“仰ぐ苗場の雄姿こそ健児我らが誇りなれ、”という相馬御風・中山晋平の校歌ですが、在学中、私は苗場を一度も仰ぎ見た事がありませんでした。

三年前、十日町高校が夏の甲子園に出場した時テレビに釘付けになってあの懐かしい「仰ぐ苗場の雄姿こそ…」が聞かれるぞと思っていましたら、全く知らない曲と歌詞が流れて来て鼻白んだ事を思い出しました。

高校の新校歌だったのでですね。

今年もおそらく佐伯さんは“人の話を聞いて貰えず、”会長職を続けられることとっております。健康にはご留意下さいますように。

さて、新潟県人七月号が届き、早速、佐伯さんの名文を拝読いたしました。県立村松高等学校は相当な長文にもかかわらず実によく精査されていて流石は…と思いました。黒で白抜きの十二本の柱立ては読み易く、私好みのものでしょか？ 筆もよし画もよし、たいしたものど吃驚致しております。名文拝読させて頂いた御礼まで

二平 一男 (旧中 27)

前略 貴兄は、我々の時代は厳しい時代だったと言われたが私もそう思います。

学校には現役の陸軍将校が配属され、週に一度は必ず軍事教練があった。身体の鍛錬の意味で秋には完全武装で川内を経て雷山の麓を廻って帰校する。仕上げが、「白山登山」であり、練兵場における野営であり、加茂までの夜行軍であった。また年一回の全校マラソン大会は木越街道を通り五泉へ出て五泉～村松間の県道を走る。恐らく10km以上あったのではないかな。

週に一度、月曜日に全校生徒を対象にした漢字の書き取り試験があり、今の「常用漢字」の如く日常使用される熟語の小冊子があり、頁の範囲が示されて約10分位の間に解答を出さなければならなかった。(出題は五問)そして成績の良い順に各学級別に平均点が掲示された。これは後日、実社会に出てから「非常に為になった」と、すこぶる好評であった。私自身を省みても随分、為になったと思う。あとで国漢担当の斎藤勝先生の発案であったと聞いた。四・五年生の進学組は一学期に一度、模擬試験と称し英語、数学、国漢の三科目について試験が行なわれ、成績上位者から点数と氏名が控所に発表された。上級校への進学率を高める手段であったと思う。

私達の前までは在校中、一度の修学旅行は京都、奈良と決まっていたが私達の時から、戦争中ということで佐渡に変更になった。旅行と言っても「完全武装」で剣を吊り、背囊を背負い、銃を担いでの旅行であった。順徳上皇を祭る真野御陵で歴史の勝谷先生が悲憤慷慨、北条氏の非道専横を切々と説き、最後に捧げ銃をして拝礼した時、涙の溢れるのを禁じ得なかった。

今から考えれば戦時中のこととて学校生活は厳しかったのであろうが、私は何故か自由が束縛されたとは思わない。真の自由の意味が判らなかつたのかも知れないが結構楽しかったと思っている。正に青春の五年間でありまた所謂「戦争っ子」でもあった。戦争の中で生きて来、その環境に慣れて、そういうものと思っていた所為かも知れない。昭和十六年十二月八日、控所に正座して開戦の発表を聞いた。小雪の舞う寒い日だった。

※ 東京新潟県人会で毎月発行する会報「新潟県人」で平成17年6月号から「我がふるさと・わが母校」が、学校紹介記事として新たに取り上げられる事となった。

そして第二陣として私が「村松高校」の記事を書くことを命じられ、その記事は7月号に載った。その結果多くの人達から、お褒めの手紙や感想文を頂いた。相変わらずの駄文だが、内心嬉しかった。全部紹介しようと思ったが、大体同じような文面であり頁数の関係もあり、代表的なものを取り上げた。厚く感謝するとともにご理解を得たいと思う。(佐伯)



破れ傘でも・傘寿は元気！

旧中27回 同期会

旧中27回(昭和17年卒)の同期会が10月24日五泉市咲花温泉・佐取館で一泊で開催された。この度の幹事は、村松・五泉在住者で出席予定者は始め12名であったが、風邪のため1名欠席、結局11名となった。幹事の説明によると出席可能の者は19名いるとのこと。卒業時は甲・乙組の二学級86名であったが大半は戦死、病没、療養中などで寂しい限り。だが二桁の出席は嬉しい。開会挨拶の時、「来年の場所は何处だ？」と早くも質問が出た。皆、待ち焦がれているのである。「村松と五泉が合併するんだ、今年の幹事がまた、やれや！」の一言で即決となる。

午後二時半の集合には全員の顔が揃う。散策でもあるのかと思ったが、それもなし、考えてみれば、咲花は自分らの庭みたいなものである。

開催まで、時間があるので囲碁を争い、また往時の思い出話に浸る。シベリア抑留の話に皆は、耳を傾ける。概して我々の仲間には元教師、役人、企業の役員が多い。土建関係は私ひとり、夫々に蘊蓄を傾ける。

記念写真には、勲章を貰う時のような顔で収まる。宴が始まる頃、顔馴染みの村松の姐さん二人が馳せ参じ華を添えてくれる。男ばかりの宴席という、なんだか味気ないものだが、そこは姐さん方、心得たもので場は次第に盛り上がり賑やかになってゆく。



オスはメスのそばに寄ってくるもの



もっと背筋を伸ばしなさい

カラオケが始まり下手な歌を上手に聴き、珍芸も出てくる、カメラを向けるとフラッシュが光ってないと言われ慌ててボタンを押すが、これがとんだ大失敗、別の所を押したらしい。幸か不幸か後半のフィルムは真っ白け。常連の踊り達者が欠席であったのは残念。

二次会と称し部屋でまた飲む。勿論、姐さん達も一緒。卓を叩いて論ずる者あり、姐さんと抱擁する者あつても誰も意に介しない。みんな八十の大台を越えているが、「傘寿」などの言葉は一言も出てこない。

朝食の時、「この中で体のうち・そと何処にも異常がないと思う者は手を挙げてみろ」と言ったら、一人だけが手を挙げた。ホントカナと誰かが言った。他の者は体のどこかに少なからず故障があるか、既往症がある。然し、酒を飲めば、ウワバミ顔負けである。なるほどな〜「傘寿の傘は傘でもこれは破れ傘だわい。何だかんだと言っても役にたってる」と思った。

「この中で昭和生まれはダレもないんだな!」と誰かがボツリと呟いた。

翌朝も酒から始まる。10時半解散となり、宿の車で送ってもらう。途中、村松の町でも見学しようや、との声が出るが観る処もない。6月の東京、8月の母校総会の礼に学校へ立ち寄るが生憎と校長は出張中、教頭先生に挨拶し新潟へ向う。新潟でまた飲む。

新潟駅北口を出て、すぐ右側にあるビルの地階にある「安兵衛」という恰好の店である。一度、行かれたら?

風邪で欠席した東京の吉田 Dr から幹事宛ての詫びの手紙が披露され、その中に漢詩が書かれていた。我々にピッタリの詩なので紹介しておきたい。(佐伯)

対酒当歌	酒に対しては	まさに歌うべし
人生幾何	人生	いくばくぞ
譬如朝露	たとえば	朝露の如し
去日苦多	去りし日	はなはだ苦多し
何以解憂	何を以ってか	憂いを解かん
唯有杜康	ただ杜康(酒の意)	あるのみ

(曹操)

勸君金屈危	このさかざきを	受けておくれ
満酌不須辞	どうぞなみなみ	つがしておくれ
花筵多風雨	はなにあらし	のたとえもあるぞ
人生足別離	さよなら	だけが人生だ

千武凌 井代轉二 訳



旧制村松中学校第27回卒業生同期会 平成17年10月24日



高4回生・東京地区「お花見懇親会」

鈴木 健司 (高4回)

「懇親お花見会」と「懇親食事会」がドッキングした新しいスタイルの「懇親会行事」を、平成17年4月14日に実施しました。今まで「乾杯！」で始まる宴会形式の懇親会をやったのですが、「より内容が濃い新機軸を……」とのご意見や発想から実現したものです。

まず、『新宿御苑』の新宿門入り口に午後2時半、男女合わせて18名が集合しました。実は、小泉総理主催による「桜を観る会」が4月9日に実施されました。ですから「染井吉野」には遅い時期だろうと心配していたのです。ソメイヨシノや早咲きの品種は既に散り始めておりました。静かに散る桜花……風に舞う花びら……それもまた、趣のある儂く美しい風情に見えたのです。

一方、多少遅咲きの品種もたくさんあり、「普賢象」「八重紅枝垂」「長州緋桜」「躑躅」「御衣黄」などが、あるものは満開で、あるいは五分咲きで、咲き始めでと、私達を出迎えてくれました。新宿門から日本庭園へ向う途中、満開の長州緋桜の下で全員の集合写真を撮ったのが、掲載した写真です。

日本庭園では池面に張り出し、散り始めの「大島桜」の大枝と、水面に浮かぶ花びらとの調和が魅力的でした。さらに、その背景には新宿の高層ビルが望め、まことに珍しい景観となっております。

フランス式庭園を右手に見て、大木戸門から新宿御苑を後にし、徒歩で「東京ガス四谷クラブ」へ向い、「懇親お食事会」の運びとなりました。この会合にも工夫改良を凝らしました。「宴会・飲み会でなく、懇親お食事会ですよ」と男性には根回しをしておきました。散会のあと、女性は全員でそのまま「お茶会」に移りました。

以上の次第で、初めての試みにしては成功裡に終了し、特に女性にはご好評だったと自賛しております。次回の秋の行事もご期待に添えるよう企画しています。

さまざまの事おもひ出す桜かな 芭蕉
年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず

「唐詩選」 劉廷芝



満開の長州緋桜の前で

我らの歓呼が轟き渡る

雲村 俊髓 (東京在住 高5回)

◇「うーん、誰だっけ？」と、見つめ合う。どちらも顔の皺が深い。が、瞳の奥だけが青春の日のように煌いた。

「あっ、ケイちゃんだろ」、「と言うお前はクモちゃんか」。松高を巣立ってから52年ぶりの再会である。

その人は弦巻奎助。東京で勤め人になり、やがて独立したが、失敗をし、苦悶の日々を送っていると聞いたことがある。しかし今みせた笑顔に過去の翳りは露ほどもない。私も固く握手を返し、思い切り相好を崩した。

時は10月18日の昼下がり、場所は新幹線の越後湯沢西口広場。新制5回生の同期会(通称・松五会)を魚沼市六日町で開こうと、男女30人の東京勢と新潟勢が、ここに集合したのだった。

◇ ホテル坂戸城までの送迎バスは、はしゃぎ声に満ち溢れた。みんな高校生に戻ってしまったようだ。ひと風呂浴びて、宴会の席に着く。新潟は米も酒も料理も美味だ。

ふとみると、あのケイちゃんが注いで注がれてメロメロに酔っていた。いいさ、今日は泥酔するがいい。ところが舞台上に黒田節のメロディーが流れだすと、男性が舞扇をかざして登場した。ケイちゃんだった。花柳流の名取なのだそう。さすがに形が決まり、ふらついたりはしない。夜が更けて応援歌を歌うときがきた。♪切磋琢磨の功を経て、と絶叫すると、思わず胸の熱くなるのを覚えた。

◇ 部屋に戻っても話は尽きない。さて、もう一献。朝食でも乾杯が続く。帰りのバスは塩沢つむぎの里から名利・葉照寺へと回った。案内の僧侶が一行の男性達をみて「朝から酔えるとは、いい身分だな」と呆れ顔で出迎えた。

須弥壇前に整列すると、「当寺の桂の木で作った線香を500円でお分けしよう」と僧侶が恭しくのたまう。すると、ケイちゃんが鸚鵡返しに言っただけ。「400円に負けとけや」と。これには大笑い。私も腹の皮がよじれた。

昼食は魚野の里で、完結の一杯を。誰もが思い残すことのない表情だ。「来年は一人が一人を誘うと六十人に増えるぞ」と言った願いを確かめ合って、新潟行きと東京行きの新幹線に分乗した。列車は右と左に遠ざかって行った。



第16回 松五会 平成17年10月18日 於：六日町ホテル坂戸城



また一つ歳をとって

石川 滋 (高5回)

老化が原因で、今迄行ってきた社会生活が困難になるのは、人により可成り個人差があるらしい。病気で倒れる人は別である。老化の具合は運動能力と精神能力の二つに分けて考えられる。五十歳位で「ボケ」を疑わせる人もいるが、九十歳でシャンとしている人もいる。

「ボケないように」等と言う本が沢山出されているが、全体の寿命にはあまり関係なく、寿命の長さには、むしろ遺伝とか生活習慣などの影響を強く感ずる。

わが国は全人口のうち、高齢者の占める割合が次第に大きくなりつつある。わが家には長生きの素質が無いらしい。私は五人兄弟の末弟で、兄が二人いる。上の兄は私よりも四歳年上で、以前は年に二～三回は一緒にゴルフをする機会があったが、最近は何も「老人ボケ」で、ゴルフが出来なくなった。また、東京で同居している義母は九十一歳で、また別のタイプのボケ症状がある。病気が原因で高齢化の影響が隠された人は別であるが、これからは、元気(?)でボケた老人がもっと増えることであろう。

以前にも書いたと思うが、高齢になると感情に関係ない記憶は忘れやすいものである。「アレ」「ソレ」はその始まりと考へたい。また、最近の事柄は極めて忘れやすくなる。分かっている事でも、慌てて言おうとすると逆に言えなくなる。また、バランスが悪くなって、衣服や靴の着脱が不器用で下手になる。会話や動作がのろくなる。排便、排尿の括約筋の締めが悪くなり、失禁し易くなる。悪筆でなんと書いたのか自分でも分からなくなる。

このような症状は出てきたり、なかったりする。しかし、我が国の医療は国民皆保険制の立場をとっているため、病気の症状と高齢化による身体症状が明確に区別されていない。最近、病院の外来で高齢者の相談を受ける機会も少なくない。私は年寄りの言うことが良く分かる医者になってきた。

大学時代の同級生で、脳卒中のため仕事が出来なくなって五年になる人がいる。癌で三回も手術を受けた人もいる。また、心臓にペースメーカーを入れながらゴルフ大会で優勝し、みんなの非難をあびた者もいる。

大学の同級生四十七人中、十人が既に死亡した。最近の臓器別医学では、六十五歳以上の高齢者は四つ以上は悪いところを持っているという。痛むのは仕方がないが、この年になって痛くも無いのに病院で検査を受けるのは御免である。老人性痴呆は初めのうち部分的で、その時々で異なるようだ。しかし、それは次第に悪化し、最後には痴呆状態であることが自分では分からなくなるらしい。

私は毎日の通常勤務をやめて一年になる。一見して病人らしく見えない為か、何かと仕事を依頼されることも少なくない。現在、東京都江東高齢者医療センター、

上福岡総合病院、所沢中央病院等に大学の関連もあって週に半日づつ行っている。いずれにしても、週に半日の仕事だから、院長をしているより遙に気楽である。外来を埋めること、患者や先生の相談にのること、専門家への紹介等が仕事である。手術や責任のあることはできるだけしないことにしている。近頃、動作がのろくなった所為か、時間の経つのが速くなったように思う。

このごろ思うこと

向山 律子 (高5回)

幸せなことに私は、現在五つの会に属し、それぞれの会で楽しませていただいております。

一つの会を作って育てて行くと言うことは楽しい事ばかりでなく種々の問題が湧いてくるものです。お互いが納得して楽しい会を構成していくのが常に問われる事であると思います。

同世代で構成されている場合は各人の性格、歩んで来た環境等によって価値観が異なるのは当然のことですが同等の立場で意見交換が出来易く、割と円滑に会は進行して行くようです。しかし、大正・昭和初期の先輩方と昭和二桁の後輩の間であって、どうしても埋めることの出来ない時代のギャップを感じ、焦燥感に駆られる事が多くあります。

同窓会や郷土の会はまさに難題が多く、理解し合えない、譲れない……様です。大正生まれの人達と、吾々より数年以上後輩の人達との潤滑油にでもなる事が出来ればと努めるのですが、思うようにいかないものです。

我々の時代は先輩から見れば戦後派、後輩から見れば戦前派の世代に見えるようです。会の運営を考える時、出くわした状況で自分の思いあがりや傲慢?に時に気付き、自己嫌悪に陥り悩むことが多くなりました。このようなことは、何時の世にあっても繰り返されることであろうと思われまふ。と言っても、私は人の集まりに出席して話し合える場を与えられること自体に感謝しております。色んな会合の機会を謙虚に、いつでも現在を肯定して受け入れられる包容力のある心境でありたいと願っております。

雲村俊槌さん (高5回)

第五弾「江戸・東京歴史人物散歩」発売中!

第一弾「小説仙寿院裕子」発表、日本文芸家クラブ長編小説大賞を受賞。以後、「元禄の豹・堀部安兵衛」「大江戸怪盗伝」「江戸・東京散歩35選」を刊行。

今回の「江戸・東京歴史人物散歩」は見慣れた町が江戸情緒あふれる山の手や下町に早替わり。大岡裁きの南町奉行所跡は有楽町駅前、さくら吹雪の刺青でご存知、遠山の金さんが活躍した北町奉行所跡は、東京駅八重洲北口と、ゆかりの地が丁寧に書かれています。

立ち寄ってみたい「江戸の心が香る店」も載っている便利なポケット・ガイドブックです。書店の文庫コーナーにて571円(税別)で販売中。ぜひ、どうぞ (鶴)

青春に残る悔い

伊藤 勇五 (旧中 33)

(美紗ちゃんは元気なんだろうなあ…)

今年喜寿を迎えた彼には、今なお折につけ安否を気遣いながら追慕の思いを抱いてきた女性がいる。

終戦の年の9月、彼が海軍(予科練)から帰ると母が脳梗塞で倒れ臥せていた。「この2月に次男と四男の戦死の公報が相前後して届いた。子供達が戦争で召集された以上、覚悟はしていたものの、母さんはかなり気落ちしていた。それも病気の原因の一つかも知れない」と言ってお父は顔を曇らせた。「それで医者か？」と彼が訊くと、「今はお灸の先生が一日おきに治療に来ている」と云う。復員してから未だ身の振り方が決まっていなかった彼は、治療で遅くなった先生を家まで送って行くようになった。

先生の家は、ここから1キロ余り離れたお寺の山門脇にあった。一家は終戦前までずっと朝鮮で生活していたが、奥さんがお寺の住職の妹だったので、住職を頼って引き揚げて来たのだった。先生のところは奥さんと娘3人の5人家族だったが、娘の中でも次女的美紗子は村でも評判の美しい娘だった。

父に言われて先生を送って行ったり、米や野菜などを届けたりして、彼は家族の人達と親しくなったが、特に次女的美紗子は彼より二つ下と年も近かったので、次第に思いを寄せ合う仲になって行った。そして二人が純な付き合いを続けて半年が過ぎた。

昭和21年の春、彼は予科練に入る為に中退した村松中学校の4年に復学した。美紗子も新津高女の3年に転校した。通学は阿賀野川を船で渡り、対岸の鹿瀬駅から磐越西線の下り一番列車を利用するのが、最も近くて便利だった。然し、一番列車の通る頃、肝心の渡し船は時間が早いので未だ運行を始めていなかった。止む無く二人は4キロの道を歩いて、隣の津川駅から汽車に乗るより仕方なかった。だが二人には4キロの道なんか、ちっとも長くなかった。

毎朝、村外れの一本杉の下で待ち合わせをする二人を見掛けると、村の人達は「お早よう、遠いから大変だね」と言ってお温かく見守ってくれていた。

昭和21年の春から翌年の冬休み前まで、常に一緒に通学したこの年月で、お互いの愛情はより深く、二人の信頼はより強くなって行った。

二人が夫々の学校の卒業を来春に控えた最後の冬休みに入った頃、先生が体調を崩して寝込んでしまい、彼の母の治療に来られなくなった。先生は当分の間治療に行けそうもないからと、父に村の保健婦のリハビリを薦めた。

降ったり消えたりしていた雪が、根雪になる降り方に変った頃、保健婦は役場を退くその足で母のリハビリに来るようになった。

今まで先生の治療は患者の肌に直接灸をするのではな

く、薄くスライスした大蒜(にんにく)をツボに乗せて、その上から灸をする方法なので、大蒜の成分による効果の他に火傷をする程の熱さは大分緩和されて肌に伝わったようだった。そのため灸の治療で母は熱さで身をよじる様な仕草は殆どなかった。

然し保健婦のリハビリは利かなくなった母の半身も含めてマッサージが中心と思われるので、それなりの痛みはあると思えるのだった。(続)

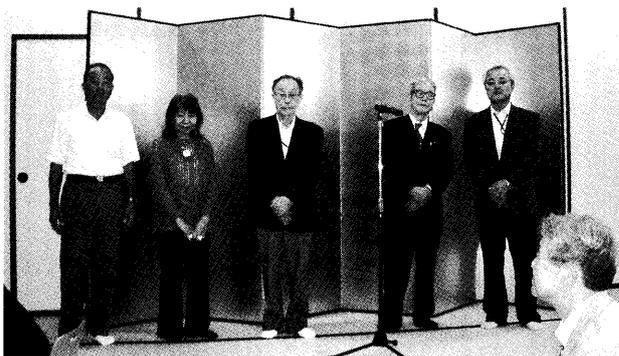
母校同窓会総会

平成17年8月21日(日)PM3:00、松高同窓会総会が総勢41名の参加により村松町の割烹「新瀧」において開催され、東京同窓会から佐伯会長を始めとして八木、深見、間藤、大橋の各氏が参加した。

総会では、伊藤淳一会長と藤田暉輔副会長が退任され、新会長に相田豊氏(高9)、副会長に阿部律雄氏(高20)、浅田光雄氏(高20)がそれぞれ就任され、母校同窓会は期待をこめて新たなる出発をすることとなった。

東京同窓会は、これを心から祝福すると共に、母校の抱える難問を解決するべく一体となって協力体制を整える必要があると思った。

総会において、水茎学校長は母校改革の情熱を披露され、この新春号にもその決意の程を寄稿して頂いた。同窓会本部には若い人材が豊富に存在しているので、その行動力に期待すると共に益々の発展を祈念する。



紹介を受ける東京同窓会の参加者

銅像に屋根？

JR上越線浦佐駅前に田中元首相の銅像がある。最近、娘の真紀子さんが「パンパがかわいそう」と言い出して、銅像の上に屋根をかけることを要求している。

銅像に屋根をかけるなんて聞いた事も見た事もないと新聞や雑誌が書いている。銅像は風雨に晒されているからこそ、その人の人格や功績が伝わってくるものである。芭蕉や弘法大師のように編み笠を被った銅像もあるが、これは自然の姿。

10月16日、角さんの十三回忌が地元で開かれたと聞いたが、何を今更？の感が無いでもない。(伯)



変わりゆく村松

加藤 系一 (高7回)

初めて「臥龍が丘は緑なり」に寄稿したのが平成14年大会号でした。今回で5回目となります。村松の様子が少しでも伝わればと思いながら書いています。

我が故郷村松は平成18年1月1日、五泉市と合併して新しい五泉市となります。村松町でなくなるのです。時の流れとはいえ、寂しくもあり悲しくもあります。やはり長年住み慣れた町ですから体の芯まで村松町に染まっています。人に負けない程の愛町の心があるのです。現在の居所は異なっても、かつて村松の住人であった方々にとっても同じ気持ちかと思えます。

村松町の住居表示は甲、乙で示されていますが明治以前から使われてきた町名が今も親しみを込めて言い継がれ使用する人もいますし郵便も届きます。

藩政時代からの町名が38あるので、そのうちのいくつかを書いてみます。

馬場丁、源太小路、搦手通り、大手通り、六軒丁
御徒士町、長柄町、鍛冶丁、根木町、高札小路
袋町、裏寺、城町、搦屋小路、薬師小路、春日小路
當所通り、新道、宝町、片町、桐林、新町、新丁
《武家方の町内は「丁」、町方の町内は「町」》

最近、町の辻々に旧町名を大書した立体看板が立てられその下にいわれを示すプレートをつけて設置されました。これは合併によって旧町名が忘れられないようにとの思いをこめて更に町の活性化に活かそうと町の商工会や有志団体によって立てられたものなのです。このことに直接携わられた村松町文化財調査審議委員・伊藤 正氏が「退公連だより」に寄稿された文を氏の了解を得てここに紹介いたします。

旧町名看板と社会貢献活動

伊藤 正

村松にお住まいの方々は、最近町のあちこちにしゃれた瓦屋根の看板が立てられたのにお気づきのことと思う。

実は、村松(30年合併以前の村松町)には公式な町内名がなく、甲乙の番地で住居表示がなされている。甲は藩政時代の町方、乙は武家方とそれなりの由緒もあるのだが、歴史に関係ない郵便局や警察ではかなり苦勞をなされているようである。

先年、町内名を作ろうというので会議が立ち上げられたが、甲論乙駁ついに結論が出ないままお蔵入りとなっている。新しい町内名を作ってみたものの、世論に押されてわざわざ旧町名のプレートを表示した新発田市の例もあるので、新町名を決めなかったのは賢明であったとも言われている。

しかし町内名がないかといえば必ずしもそうではない。明治の初め、甲乙地番が付けられる以前から呼び慣わさ

れていた、由緒ある町内名が非公式且つ公然と用いられている。今回立てられた看板は、この由緒ある旧町名を町の活性化に活かそうと、町の商工会商業部がデザイン位置選定など具体的に企画し、町の商工観光課と協力して建設された。町名の解説に関しては、町の有志団体である「お城の会」が担当し、写真等の資料は、主に町の郷土資料館とお城の会が提供した。

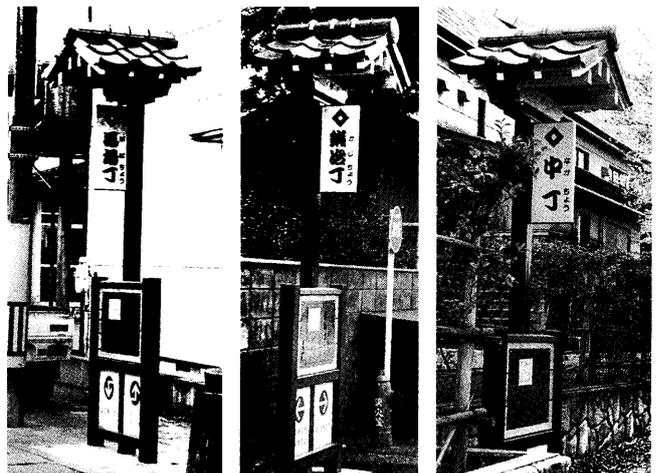
このお城の会は町商工会青年部と建築士会が立ち上げたもので、そこに有志が加わって、城下町資料の収集保存の活動を行っている。今までの主な事業として、村松城の復元模型作成、町への寄贈、諸文献の復刻配布、古い武家屋敷の解体保存などを行っている。役員として退公連の佐藤昌一会員と不肖伊藤が参加して、異業種の若い方々と共に楽しく活動させてもらっている。今回の看板の解説文にも伊藤が関与した。

平成13年10月から町のローカル紙に、お城の会提供記事として村松の歴史と風土について40回の連載をしたり、町巡検を行ったなどの啓発活動も、この事業のきっかけになったのではないかと考えている。

さて、この看板は町活性化システムのハードウェアに相当するものである。これを活用するには、ソフトウェアに相当する町名や町の歴史、自然、産業、産物などに関わる物語りを組み立て、システムオペレーターに相当する語り部を育成することが必要であると提言している。

ソフトの作成に関しては、商工会、町商工観光課の主催する会議に商店街有志、雪割草の会、能代川サイクリング道路に関わる九十九曲がりの会、等の参加を要請して、各方面のアイデアをこの事業に関連付ける工夫をお願いするとともに、教委生涯学習課に語り部育成のため、町巡検などの一般町民向け講座の開設を計画していただいている。お城の会でも数次の町巡検講座を行うことを企画している。

この事業は、単に町の観光開発に止まらず、地域住民の心に町民としての誇りを呼び起こすことも重要な目的の一つと考えている。(以下、省略)



馬場丁

鍛冶丁

中丁



話変わって「広報村松」11月号からの抜粋です。

町の人口（平成17年11月1日現在）

男	9,695人	(+9)
女	10,589人	(+11)
計	20,284人	(+20)
世帯数	6,083	(+40)

()は前年同日数	10月	今年10月20日現在
町内交通事故数	9件(10)	64件(67)
死者	0人(0)	0人(2)
負傷者	12人(16)	89人(81)
火災発生件数	0件(1)	5件(11)
救急車出動回数	40回(58)	647回(643)

村松高校生活躍

村松町社会福祉大会が10月29日、さくらんど会館イベントホールで開催され、村松高校生が活躍した。

テーマ 「何ができるか」

発表者 村松高校生徒・インターアクトクラブ（奉仕団体）
会長 加藤未来さん 他8名

※ロータリークラブの下部組織で青少年に社会奉仕や国際親善の機会を与える事を目的として、2年前に結成。校内清掃や施設等での身近かなボランティア活動を目指し、手話も練習中！

いかがでしょうか、村松の姿が少しは伝わりましたでしょうか。かつては村松の人口と公園の桜の本数を尻取り数合わせで「2.3万・3.2千」と覚えたものです。

ところが、現況は桜の植樹が進み、人口は減少の一途を辿っているので、尻取り数合わせが出来なくなりました。

薪割りは男のロマン？

堀 直昭（高8回）

ほんとうは、耕運機が走り回るような広い畑を作るのが夢だったが、平らな場所は道路沿いに僅かばかりしかないから、鍬を一振り、種を一摘み蒔くと作業が終わってしまうミニ農園で我慢することにした。「猫の額農園」と友人が命名してくれる。余計なお世話というものだ。こんな畑でも恰好をつけるのに一年もかかってしまった。

まず人の背丈ほども茂っているススキ、蔓草、雑草を鎌で刈り、石だらけで鍬は歯がたたないから、ツルハシを打ち込む。体格のよい客人が遊びに来ると、土いじりの喜びを教えてあげよう、と甘言誘致し、怠けていると奮励努力するよう叱咤激励して大石を掘り起こし運び出す。テコでも動かないものは、アキラメて埋め戻す。

石だらけの土はフルイにかける。試行錯誤の末フルイの作業台をつくることにする。丸太を組んで紐で結び、トロイの木馬のような……、見方によっては最先端ハイテクマシンの如き美しいフルイの台が完成。二十一世紀の農業は機械化が必要なダと一人で納得していると、通りがかりの人から、「まるで弥生式農耕ですなア」と声をかけられ思わずゾッコケそうになる。

重労働を強制した仲間たちは、その後姿を見せず、わが家を「ペンション蛸部屋」とか「悪魔の館」と称している由。たまに姿を見せても、人が一年がかりで働き貯め込んだ薪を惜しげもなくストーブに放り込みながら、「薪割りは男のロマンだア！」などとわめき新鮮な無農

業野菜を「美味しい、美味しい」と食い散らかしながら、「晴耕雨読の生活こそ男の夢なんだ」などノタマウが、もはや誰も働こうとはしない。

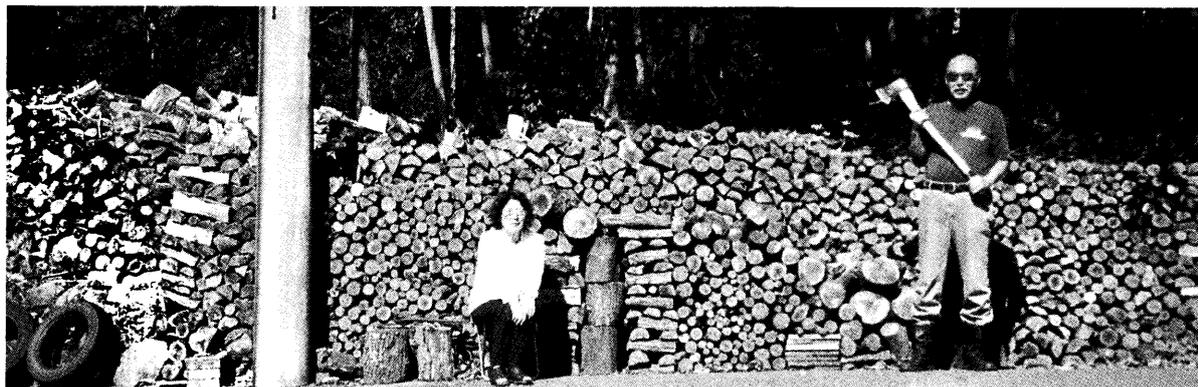
「ウチは宿屋じゃないのだから。言うなれば君達はホームステイなのだから。ホームステイというのは家人と共に働き、生活するという約束があって……」と奮励努力するよう説得に努めるが、駄目なものは駄目なのである。岩石に覆われた急斜面を段々畑に改造するという大仕事があるのだが、頼りにならないから諦めて、友人の業者に依頼して一緒に働くことにした。

機械が入らないから人力とチェーンブロックで石を積み上げ、大量の土を入れる。下から見上げるとまさに城砦であるが、慎み深い私は「山寨」と称している。

いつか必ず飢餓時代が来ると信じているから、ミカン、やまもも、柿など実のなる木や、アシタバ、コンフリーなどの食べられる草も植える。

ようやく完成した段々畑は再びフルイをかけ、腐葉土を鋤込み早速種を蒔くが、残念ながら日当たりに問題があり、ようやく生え揃った菜っ葉もたちまち虫に食われ、鳥につつかれ惨憺たる有り様になる。

自然が豊かということは、虫も鳥も豊かにいるということだから、有機農法をやろうとすれば様々な工夫が必要なようだ。マル秘の方法を公開するつもりでしたが、紙数が尽きたようで残念です。



山のような薪を背に逞しく構える筆者と慎ましやかな奥方様

ヤーコンの話

新保 優 (高10回)

ヤーコンはアンデスの高地が原産の、サツマイモに似た健康食品である。最近はかなり知られてきて、スーパーや八百屋で売られていることもある。

私は2年前、横浜市の植木交換会で、はじめてヤーコンに出会った。この植木交換会は、春と秋に横浜市の植物園で行われる行事であり、鉢植えや苗を持って行くと、他の人の持ってきた物と交換できる。

持ち込まれた品物は、植物園の職員が点数をつけた後、種類や評点などで大雑把にクラス分けされて展示される。出品者は自分の品物の点数分だけ、好きな展示品を持ち帰る仕組みである。

不要品の交換が目的なので、形の崩れた鉢植えの木、あまり元気のない花や野菜の苗などが目立ち、時には引き抜いたばかりの苗木や草花をポットに押し込んだもの（これはルール違反）などもあるが、時々珍しい掘り出し物があるので、私はこの催しを楽しみにしている。

この時も、最低の1点を付けられた雑物のコーナーで、ヤーコンと名札が付いた小さな苗を見つけた。ヤーコンが健康食品であるとの記憶はあったが、どう使うのか、何に効くのかも知らなかった。しかし興味をそそられたので貰い受け、鉢植えで育てた。

鉢植えのヤーコンは、あまり肥料もやらなかったが、ひまわりに似た葉をつけて、50センチ以上の高さまで育った。晩秋に抜いたら、二十日ねずみほどの大きさの芋が数個とれた。試食するには少なすぎる量であったが、たまたま近所の農協祭でヤーコンが売られていたので、それを買って料理法や味を試した。

そうしたら果物のように甘い癖がなく、さくさくした歯ごたえがあって、生食しても、火を通して結構いけることが分かった。



ヤーコンの苗

ヤーコンにはオリゴ糖という成分が非常に多く含まれているそうである。これは人の栄養にはならないが、善玉の腸内細菌を増やし、それが整腸作用を生じるので、

便通がよくなる。これはてきめん効いた。

この他に、ポリフェノールや食物繊維、ミネラルなど、今話題の健康成分が豊富に含まれていて、高血圧、糖尿病などに効くそうである。

幸い私は、ヤーコンの効能が差し迫って必要な状況ではないが、その味が気に入ったので、ネット販売品を取り寄せて、12月から6月までのシーズンには、ほとんど毎日食べていた。

沢山食べ過ぎると下痢ぎみになったが、他には副作用は感じられなかった。一方、気になっていた体重の増加が止まった。

昨年、今度はずっと大きく育てようと地植えにしたが、6月ころから温室コナジラミが大発生して、株がすっかり弱ってしまった。

しかしこのコナジラミ、近所の温室で、数々の農薬の洗礼に耐えた猛者と見えて、市販の殺虫剤がほとんど効かず、代わりに葉害のせい、か、ヤーコンの葉が全部落ちてしまった。

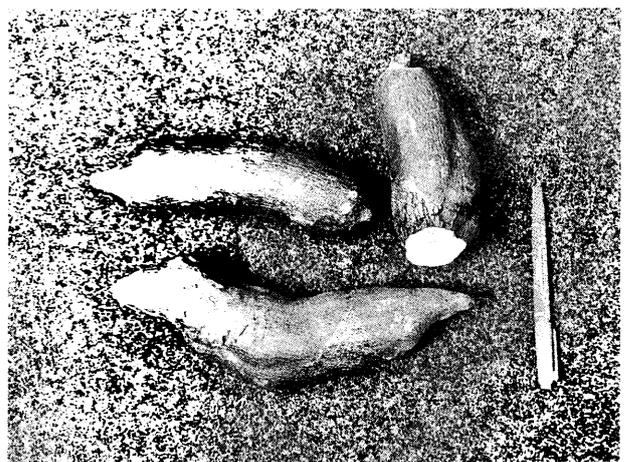
秋になって再び葉が伸び出したので、霜に遭って枯れるまで育てた。しかし芋は一個も取れなかった。ただヤーコンはダリヤに似て、地中の茎に芽ができるので、苗だけはたくさん取れた。

今年こそと、今度は6本も植えた。西日しか当たらない場所にもかわらわず、元気に育っていたが、6月に入るとまたコナジラミが付きはじめた。

この虫はその後猛烈に繁殖して、白い粉を撒き散らしたように飛び回り、ヤーコンの葉は伸びて広がるとすぐ、虫にやられて枯れるようになってしまった。

農協で買った葉が効いて、虫はほとんどいなくなったが、肝心のヤーコンは、丈こそ2m近くあるものの、下葉が7割がた枯れ落ちて、衰えな姿になってしまった。

彼岸の頃になったら新芽が出てきて、新しい葉が繁り始めたので、少しは芋がとれるのではと、淡い期待で眺めている。



ヤーコン芋



訃報

青木 猛 氏 (高2回)

平成17年6月28日にご逝去されました。
 青木氏には、長年にわたり幹事として会の運営に多大な御尽力を頂きました。6月4日の大会ではお元気に活動されており、信じ難い逝去でした。
 ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

訃報

伊藤 馥 氏 (高8回)

平成17年7月17日にご逝去されました。
 伊藤氏は日本美術家連盟会員・元国画会会友として油絵の制作に励まれ、数々の名作を世に送り出されました。
 2003年9月、銀座での個展が今は懐かしく思い出されます。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

第四回ゴルフ親睦会開催

2005年10月6日(木) 入間カントリー倶楽部にて松高東京同窓会の第四回ゴルフコンペが開催された。
 晴れ男の笹川氏のお陰で雨模様の天気が、スタート時には一変して絶好のゴルフ日和となった。9時3分に開始となり、胸躍らせてスタートして行った。
 今回も亀山氏には種々便宜を図って頂き、幹事の吉井氏にも何かとお世話になり誠にありがとうございました。



優勝を胸に秘めて……

成績 (敬称略)

- 優勝・間藤謙一、準優勝・鈴木輝雄、3位・亀山知明
 参加者名 (敬称略)
- 1組 亀山知明 (高3)、金子鶴男 (高5)、吉井 清 (高8)
 2組 大島惣四郎 (高4)、笹川 隆 (高5)、片柳ムツ (高8)
 3組 山崎輝雄 (高8)、岡部ユキ (高8)、川村イク (高8)
 4組 鈴木輝雄 (高8)、間藤謙一 (高9)、大橋貞夫 (高10)

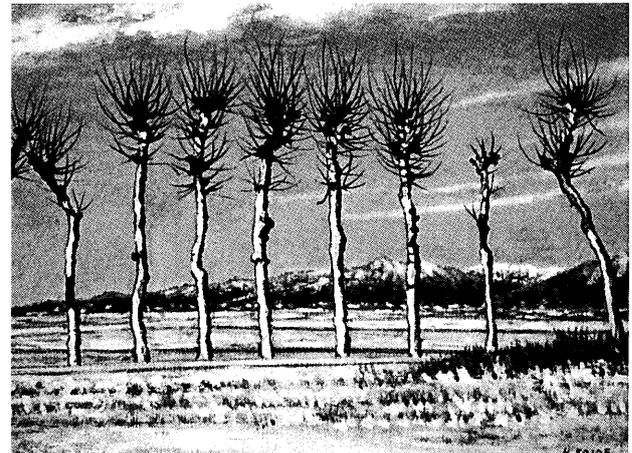
ちょっと変な感じ

11月3日の「文化の日」の夜NHKテレビで横田さん夫妻や、他の家族たちが銀座で拉致問題の早期解決を訴えているのを見た。
 暫くしてチャンネルを民放に変えたら、驚くことに最近、衆議院の拉致問題特別委員長になった議員サンが、お笑い番組(クイズ)にゲストとして出演していた。あるいは録画かも知れぬが同じ日の放映である。この人は、こういう番組によく顔をだしている。
 時節がら不謹慎と思うのは私だけではないと思うが。(伯)

———個展のお知らせ———



錦秋 F8



蒲原平野 F15

第8回 小出博三氏 (高8回) 油絵展

- 会期 '06/2月26日(日)~3月4日(土)
AM11:00~PM7:00 最終日はPM5:00まで
- 会場 東京交通会館B1 (シルバーサロンA)
千代田区有楽町2-10-1 TEL03-3215-3826
JR線 有楽町駅 京橋口 下車正面
地下鉄 有楽町線 有楽町駅 下車A8出口
アトリエ●〒274-0812 船橋市三咲7-22-20 TEL047-448-9632

———表紙について———

表紙の画は加藤系一氏 (高8回) 作の「蛭野の里に雪降り積む」である。加藤氏には毎回ご協力を頂いており深く感謝申し上げます。



日本の英語教育政策はどうなっているのか

小池 生夫 (高3回)

父は昭和21年から25年まで教頭兼英語の先生として村松高校で働きました。後に県立津川、十日町、柏崎、長岡高校長を16年つとめました。平成14年元旦に97歳でこの世を去りました。生前ご厚誼を戴いた方々には厚く御礼申し上げます。

当時は戦後間もない時期で、旧制中学が新制高校に換わり、陸上競技部がインターハイで大活躍していました。又、地元の新潟大学を始め、東京でも東大など諸大学に複数の合格者を出していました。私も文武両道に秀でることを信条として、勉強と箏球部で頑張ったものです。

私は英語教師50年になります。都立日比谷高校などを経て、慶應義塾大学で長年教え、名誉教授となり、現在は明海大学教授です。この間、英語教育の国内、国際学会の会長などを務め、文部科学省の外国語教育政策の策定にも参加してきました。

日本の英語教育は、幕末時の導入以来、文明開化を担う新生日本の基礎を築く人材の輩出に役立ちました。

お雇い外人から諸学を学んだ人達の多くは、最初から英語だけで習いました。初めは先生の説明が解らないで大変苦労しましたが、1、2年後には英語をかなり駆使できたといわれます。その後、政府が政策を変え、外国人教師に代わり日本人が教えるようになると、日本語を多用する授業に変わったのです。英語は和訳、文法中心となり、原書を使用したものの、聞く、話すという訓練はあまりしなくなったのです。それ以降今日まで、この流れは続いています。受験英語や英文解釈法の発達は日本人の文化遺産になり、翻訳文かを豊かにしたものの、外国人と直接交流する能力は低いまま推移し、大戦での

敗北の一因にもなります。今日、国民の国際社会での活動が急速に拡大している中において、英語は欠かせないコミュニケーション能力であるにも拘わらず、十分に駆使できる人はそれに対応出来るほど増えておりません。

長い間、日本人にとって英米の文化が高度の教養、文化の指標であり、英語に習熟することは、それを具現化することでした。しかし、最近では情報化時代の到来により、英語は英国人の言語というよりも「国際語としての英語」になり、国際理解・国際交渉などに欠く事が出来ないコミュニケーションの道具という視点が一般的になりました。それに伴い、企業社会では英語の4技能の能力向上が至上命令となっています。国際社会においても英語教育の目的が変化し、国際理解・国際交渉能力の養成という観点が主になっています。

英語コミュニケーション能力の質の高さと量の大きさは国力の盛衰と関係があります。この向上は、重要国策として、国によっては確りした政策をつくって実施しており、その効果が出ています。近くでは、韓国、台湾、中国政府がそうです。日本も、ある程度はそういう認識がありますが、結果的に政策に反映する度合いとなると大きな差があります。それが日本人の英語力は世界でも最低クラスという結果を招いています。他の外国語能力は言うまでもありません。

これには種々理由がありますが、遠くは日本人の風土からくるメンタリティと、長期的視野に立つ政策・大型予算の投入という思い切った政策がとれない仕組みが出来上がっていることにあります。

後は個人の努力に任せることですが、学習の動機、持続力、教授法、学習法、教材が問題になります。それ等の研究はかなり進んでいますが、次の機会に譲ります。

血縁族の議員サン

衆・参両院議員サン達の顔ぶれを見ていると不思議なことに気が付いた。夫婦、親子、兄弟、親類と血縁の人が極めて多いのである。正に血縁族である。属する党が異なり、心情・政策が違う場合もあると思うが何処か変だ。地盤を守り、選挙対策の要もあるが、それなら一族一家で相談して代表を出せばよいと考えるが如何なものか。歳費は生活費として貰うものではない。選挙運動は就職運動ではない筈。

因みに新聞記事(総選挙前)によれば衆院選に立候補した者1131名の内、父母または祖父母が衆参議院だった世襲候補は170人近くいると知った。

実に約15%である。驚いた。

次いでながら、もう一つ。小選挙区で落選し寄託金を没収され、比例区で帰る。こんなバカみたいなことはない。重複立候補制度はやめた方がよいと思うし、そろそろ選挙制度を見直す頃ではないか。(伯)

編集後記

明けましておめでとうございます
本年もよろしく願っています。

会報の原稿締切日も押し寄せました
昨年の十一月十三日、私の一人娘が
略奪された? いや、嫁に行ったの
である。行く末が案じられるので御
支援・鞭撻をとお願ひしたが、案じ
られるのは親の方かも知れぬ。

とにかく肩の荷を一つ降ろして、ホッ
としている。しかし、世の中いろい
ろな荷があるので油断ならない。

会報の発行に際しても荷が増えぬ
よう、会員諸氏のご協力を切にお願ひ
いたします。

広報委員会 大橋貞夫

平成18年1月 第40号

表紙の題名・題字は佐伯益一氏(旧中27)書

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会
広報委員会

事務局 〒157-0061 世田谷区北烏山3-18-20

八木又一郎 方

Tel & Fax 03-3307-1048